植物成長調整剤

ジベレリン明治

農林水産省登録　第6004号

植物成長調整剤

ジベレリン明治液剤

農林水産省登録　第6005号

明治製菓株式会社

水溶剤

植物成長調整剤

ジベレリン明治

ジベレリン ……3.1%
湿展剤、増量剤等 ……96.9%
農林水産省登録　第6004号

毒性 普通物　有効年限 5年

包装 〔1.6g(ジベレリン50mg)×4包〕×10箱×10
〔6.4g(ジベレリン200mg)×1包〕×10箱×10

●適用作物・使用目的と使用方法

作物名	使用目的	使用濃度	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジベレリンを含む農薬の総使用回数
ぶどう (ヒムロッドシードレスを除く2倍体米国系品種) [無核栽培]	無種子化 果粒肥大促進	第1回目 ジベレリン100ppm 第2回目 ジベレリン75～100ppm	満開予定日約14日前 (第1回目) 及び満開約10日後 (第2回目)	2回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計4回以内	第1回目:花房浸漬 第2回目:果房浸漬 又は果房散布	2回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計4回以内
ぶどう (ヒムロッドシードレス)	果粒肥大促進	ジベレリン100ppm	着粒後	1回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内	果房浸漬	1回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内
ぶどう (デラウェア) [無核栽培]	無種子化 果粒肥大促進	第1回目 ジベレリン100ppm 第2回目 ジベレリン75～100ppm	満開予定日約14日前 (第1回目) 及び満開約10日後 (第2回目)	2回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計4回以内	第1回目:花房浸漬 第2回目:果房浸漬 又は果房散布	2回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計4回以内
			満開予定日18～14日前 (第1回目) 及び満開約10日後 (第2回目)		第1回目:花房浸漬 (ホルクロルフェニュロン1～5ppm液に加用) 第2回目:果房浸漬又は果房散布	
ぶどう (キャンベルアーリーを除く2倍体米国系品種) [有核栽培]	果粒肥大促進	ジベレリン50ppm	満開10～15日後	1回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内	果房浸漬	1回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内
ぶどう (キャンベルアーリー) [有核栽培]	果粒肥大促進	ジベレリン50ppm	満開10～15日後	1回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内	果房浸漬	2回以内、但し降雨等により再処理を行う場合は合計3回以内
	果房伸長促進	ジベレリン3～5ppm	満開予定日 約20～30日前 (展葉3～5枚時)	1回	花房散布	
ぶどう (2倍体欧州系品種) [無核栽培]	無種子化 果粒肥大促進	第1回目 ジベレリン25ppm 第2回目 ジベレリン25ppm	満開時～満開3日後 (第1回目) 及び満開10～15日後 (第2回目)	2回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計4回以内	第1回目:花房浸漬 第2回目:果房浸漬	2回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計4回以内
ぶどう (ヒロハンブルグを除く2倍体欧州系品種) [有核栽培]	果粒肥大促進	ジベレリン25ppm	満開10～20日後	1回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内	果房浸漬	1回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内
ぶどう (ヒロハンブルグ) [有核栽培]		ジベレリン 50～100ppm	満開10～15日後		果房浸漬又は10a当り70～80ℓ果房散布	
ぶどう (キングデラ、ハニーシードレスを除く3倍体品種)	着粒安定 果粒肥大促進	第1回目 ジベレリン25～50ppm 第2回目 ジベレリン25～50ppm	満開時～満開3日後 (第1回目) 及び満開10～15日後 (第2回目)	2回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計4回以内	第1回目:花房浸漬 第2回目:果房浸漬	2回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計4回以内
ぶどう (キングデラ)		第1回目 ジベレリン50ppm 第2回目 ジベレリン50～100ppm		2回	第1回目:花房浸漬 第2回目:果房浸漬 又は果房散布	2回
ぶどう (ハニーシードレス)	着粒安定 果粒肥大促進	ジベレリン100ppm	満開3～6日後	1回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内	花房又は果房浸漬	1回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内

作物名	使用目的	使用濃度	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジベレリンを含む農薬の総使用回数
ぶどう（巨峰系4倍体品種）［無核栽培］	無種子化 果粒肥大促進	第1回目 ジベレリン12.5～25ppm 第2回目 ジベレリン25ppm	満開時～満開3日後（第1回目） 及び満開10～15日後（第2回目）	2回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計4回以内	第1回目：花房浸漬 第2回目：果房浸漬	3回以内、但し降雨等により再処理を行う場合は合計5回以内
	無種子化 果粒肥大促進	ジベレリン25ppm	満開3～5日後（落花期）	1回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内	花房浸漬（ホルクロルフェニュロン10ppm液に加用）	
	無種子化	ジベレリン 12.5～25ppm	満開時～満開3日後		花房浸漬（満開10～15日後にホルクロルフェニュロンによる果粒肥大促進処理を行うこと）	
	果房伸長促進	ジベレリン 3～5ppm	展葉3～5枚時	1回	花房散布	
ぶどう（高尾）	果粒肥大促進	ジベレリン 50～100ppm	満開時～満開7日後	1回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内	花房又は果房浸漬	1回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内
ぶどう（あづましずく）		第1回目 ジベレリン25～50ppm 第2回目 ジベレリン50ppm	満開時（第1回目） 満開4～13日後（第2回目）	2回以内、但し降雨等により再処理を行う場合は合計4回以内	果房浸漬	2回以内、但し降雨等により再処理を行う場合は合計4回以内
アセロラ	着粒安定	ジベレリン25ppm	開花期	1花当り 1回	花に散布	1花そう当り 3回以内
かんきつ（不知火、ぽんかん、かぼす、はるみ、ワシントンネーブル、日向夏、すだち、平兵衛酢、長門ユズキチ（無核）、温州みかんを除く）	花芽抑制による樹勢の維持	ジベレリン 25～50ppm	収穫直後～収穫 約1ヶ月後	1回	立木全面散布 又は枝別散布	1回
	落果防止		開花始め～満開10日後		散布	
不知火 はるみ	花芽抑制による樹勢の維持		収穫直後～収穫 約1ヶ月後		立木全面散布 又は枝別散布	
	落果防止		開花始め～満開10日後		散布	
	水腐れ軽減	ジベレリン0.5～1ppm	着色終期 但し、収穫7日前まで		果実散布	
ぽんかん	花芽抑制による樹勢の維持	ジベレリン 25～50ppm	収穫直後～収穫 約1ヶ月後		立木全面散布 又は枝別散布	
	落果防止		開花始め～満開10日後		散布	
	水腐れ軽減	ジベレリン0.5ppm	着色始期～4分着色期 但し、収穫21日前まで		果実散布	
長門ユズキチ（無核）	花芽抑制による樹勢の維持	ジベレリン 25～50ppm	収穫直後～収穫 約1ヶ月後		立木全面散布 又は枝別散布	
	落果防止		開花始め～満開10日後		散布	
	着果安定	ジベレリン50ppm	開花期～開花終期		花又は果実散布	
	果皮の緑色維持	ジベレリン10～25ppm	収穫予定14～30日前		果実散布	
すだち 平兵衛酢 かぼす	花芽抑制による樹勢の維持	ジベレリン 25～50ppm	収穫直後～収穫 約1ヶ月後		立木全面散布 又は枝別散布	
	落果防止		開花始め～満開10日後		散布	
	果皮の緑色維持	ジベレリン10～25ppm	収穫予定14～30日前		果実散布	
ワシントンネーブル	花芽抑制による樹勢の維持	ジベレリン 25～50ppm	収穫直後～収穫 約1ヶ月後		立木全面散布 又は枝別散布	
	落果防止	ジベレリン500ppm	満開10日～20日後の幼果期		幼果に散布	
日向夏	花芽抑制による樹勢の維持	ジベレリン 25～50ppm	収穫直後～収穫 約1ヶ月後		立木全面散布 又は枝別散布	
	無種子化 落果防止	ジベレリン 300～500ppm	満開7～10日後		果実散布	
温州みかん	花芽抑制による樹勢の維持	ジベレリン 25～50ppm	収穫直後～収穫 約1ヶ月後		立木全面散布 又は枝別散布	
	落果防止		開花始め～満開10日後		散布	
	浮皮軽減	ジベレリン 3.3～5ppm	収穫予定日の3ヶ月前 但し、収穫45日前まで		果実散布（プロヒドロジャスモン1000～2000倍液に加用）	

作物名	使用目的	使用濃度	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジベレリンを含む農薬の総使用回数
びわ (3倍体)	着果安定 果実肥大促進	第1回目 ジベレリン200ppm 第2回目 ジベレリン200ppm	満開予定日 約7日前～満開時(第1回目) 及び第1回目処理後 35～60日(第2回目)	2回	ホルクロルフェニュロン 20ppm液に加用 第1回目:花房浸漬 第2回目:果房浸漬	2回
しそ(花穂)	穂の伸長促進	ジベレリン5ppm	出穂期 但し、収穫7日前まで	1回	茎葉散布 (50ℓ/10a)	2回以内(種子への処理は1回以内、は種後は1回以内)
みつば (軟化栽培を除く)	生育促進	ジベレリン10ppm	本葉2～3枚時(第1回目) とその2週間後(第2回目) 但し、収穫14日前まで	2回	葉面散布	3回以内(種子への処理は1回以内、は種後は2回以内)
みつば (軟化栽培)		ジベレリン 20～50ppm	根株伏込時	1回	根株上面に散布	2回以内(種子への処理は1回以内、根株伏込時は1回以内)
トマト	空どう果防止	ジベレリン10ppm	開花時	1花房当り 1回	花房散布 (トマト落果防止剤と併用)	種子への処理は 1回、1花房当り1回
なす	着果数増加	ジベレリン 10～50ppm		1回	葉面散布	2回以内(種子への処理は1回以内、は種後は1回以内)
メロン	着果促進	ジベレリン200ppm	開花前日～翌日	1花当り1回	散布 (4-CPA剤50倍液に加用)	種子への処理は 1回、1花当り1回
いちご (促成栽培)	着果数増加 熟期促進	ジベレリン10ppm	休眠に入る直前 (冬場の低温期)	1株当り 6回以内	茎葉全面散布 (1株当り5mℓ)	1株当り 10回以内
いちご	果柄の伸長促進		頂花の出蕾直後 ～開花直前	1花房当り 1回	株の中心部に5mℓ散布	
いちご (親株床)	ランナー発生 促進	ジベレリン50ppm	採苗時ランナー発生 直前～発生初期	1株当り 1回	茎葉散布 (1株当たり10mℓ)	1株当り 1回
きゅうり (抑制栽培)	果実肥大		開花時	1花当り 1回	花に散布又は浸漬	種子への処理は 1回、1花当り1回
セルリー	生育促進 肥大促進	ジベレリン 50～100ppm	収穫予定 15～20日前	1回	葉面散布	2回以内(種子への処理は1回以内、は種後は1回以内)
うど (春うど)	休眠打破による 生育促進	ジベレリン50ppm	伏込時	1回	根株散布	1回
		ジベレリン50～100ppm			根株浸漬	
ふき	生育促進	ジベレリン25ppm	葉数3～4枚時 (草丈10～30cm頃)		全面散布	
畑わさび	花茎の抽出時期 促進及び 発生量増加	第1回目 ジベレリン100ppm 第2回目 ジベレリン100ppm	花芽分化後の10月下旬 (第1回目) 及び第1回目処理後 約10日後の11月上旬 (第2回目) (但し、収穫45日前まで)	2回	株の中心部に2mℓ散布	3回以内(種子への処理は1回以内、は種後は2回以内)
たらのき (促成栽培)	萌芽促進	ジベレリン50ppm	伏込時	1回	駒木散布 (100～200mℓ/㎡)	1回
さやいんげん (矮性(促成又は半促成栽培))	節間伸長促進	ジベレリン5ppm	本葉0.5～1.5枚 展開時	1回	茎頂部に株当り 2mℓ散布	2回以内(種子への処理は1回以内、は種後は1回以内)
シクラメン	開花促進	ジベレリン 1～5ppm	9月中・下旬		花蕾を含む芽の 中心部に散布	1回
プリムラ (マラコイデス)		ジベレリン 10～20ppm	11月上旬頃の 花蕾出現直後		株の中心部に散布	
みやこわすれ	開花促進 草丈伸長促進	ジベレリン 50～100ppm	1月中旬の保温開始時 から7～10日間隔	3回	葉面散布	3回以内
きく		ジベレリン25～100ppm	生育期	2回以内	茎葉散布	2回以内
しらん		ジベレリン50ppm	植付時	1回	30分間株浸漬	1回
りんどう	発芽促進	ジベレリン50～200ppm	は種前		種子浸漬	2回以内(種子への処理は1回以内、は種後は1回以内)
	生育促進	ジベレリン100ppm	定植直前または 定植1～5週間後		茎葉散布	
チューリップ (促成栽培)	開花促進	ジベレリン400ppm	草丈7～20cmの時に 7日間隔	2回以内	筒状の葉の 中心部に滴下 (1球当り1mℓ)	2回以内
さつき (施設栽培苗)	茎の伸長促進 花芽分化の抑制	ジベレリン 100～200ppm	茎の伸長初期～伸長終期 (開花盛期以降) 1～2週間間隔	3回	頂芽に十分散布	3回以内

作物名	使用目的	使用濃度	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジベレリンを含む農薬の総使用回数
さくら（切り枝促成栽培）	休眠打破による生育促進	ジベレリン 25～50ppm	休眠期（温湯処理直後）	1回	切り枝全面散布	1回
カラー	生育促進	ジベレリン50ppm	植付時		球根浸漬	2回以内
			花茎伸長期		茎葉散布	
スパティフィラム	開花促進	ジベレリン 250～500ppm	出荷予定期の2～3ヶ月前			1回
トルコギキョウ	生育促進	ジベレリン 50～100ppm	生育期間中にロゼット化した時			
アザレア	開花促進	ジベレリン 250～500ppm	開花予定日約1ヶ月前			
アイリス	生育促進	ジベレリン 50～100ppm	植付時		球根浸漬	
花き類（りんどうを除く）	発芽促進	ジベレリン 50～200ppm	は種前		種子浸漬	
野菜類						

●効果・薬害等の注意

[1] 薬液の調製法及び取扱い上の注意

(1) 本剤は次表に従って所定量の水に希釈すれば希望濃度の水溶液を作ることが出来ます。

1.6g包1本（ジベレリン50mg含有）当り水量

ジベレリン濃度（ppm）	1 ppm	5 ppm	10 ppm	12.5 ppm	25 ppm	50 ppm	75 ppm	100 ppm	200 ppm	500 ppm	1000 ppm
水量（ℓ）	50ℓ	10ℓ	5ℓ	4ℓ	2ℓ	1ℓ	0.67ℓ	0.5ℓ	0.25ℓ	0.1ℓ	0.05ℓ

6.4g包1本（ジベレリン200mg含有）当り水量

ジベレリン濃度（ppm）	1 ppm	5 ppm	10 ppm	12.5 ppm	25 ppm	50 ppm	75 ppm	100 ppm	200 ppm	500 ppm	1000 ppm
水量（ℓ）	200ℓ	40ℓ	20ℓ	16ℓ	8ℓ	4ℓ	2.67ℓ	2ℓ	1ℓ	0.4ℓ	0.2ℓ

(2) 薬液は使用の都度調製し、なるべく調製当日に使用して下さい。また調製液はなるべく日陰に置いて下さい。

(3) ボルドー液等アルカリ性薬剤との混用はさけて下さい。

(4) 本剤の使用に当たっては使用濃度、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをおすすめします。

[2] 使用上の注意

(1) ぶどう

①ぶどうに関する作物名中の品種による区分は、ジベレリンに対するぶどうの反応性の違いを考慮した区分なので、ぶどうの品種がどの区分（品種群）に該当するか、病害虫防除所等関係機関に確認してから使用して下さい。

②下記③の「ぶどうの品種による区分」に記載のない品種に対して本剤を初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けるか、自ら事前に薬効及び薬害を確認した上で使用して下さい。

③ぶどうの品種による区分

イ．2倍体米国系品種

「マスカット・ベリーA」「アーリースチューベン（バッファロー）」「旅路（紅塩谷）」

ロ．2倍体欧州系品種

「ロザリオ ビアンコ」「ロザキ」「瀬戸ジャイアンツ」「マリオ」「アリサ」「イタリア」「紫苑」「ルーベルマスカット」「ロザリオ ロッソ」「シャインマスカット」

ハ．3倍体品種

「サマーブラック」「美嶺」「ナガノパープル」「キングデラ」「ハニーシードレス」

ニ．巨峰系4倍体品種

「巨峰」「ピオーネ」「安芸クィーン」「翠峰」「サニールージュ」「藤稔」「高妻」「白峰」「ゴルビー」「多摩ゆたか」「紫玉」「黒王」「紅義」「シナノスマイル」「ハイベリー」「オーロラブラック」

（「あづましずく」等の巨峰系4倍体シードレス品種は該当しない）

④降雨や、異常乾燥（フェーン現象等による異常乾燥）の心配の無い日を選んで処理して下さい。

⑤処理後の天候急変（降雨、異常乾燥）で本剤の吸収が不十分になるおそれがある場合には、ジベレリンを含む農薬の総使用回数の範囲内で再処理を行うことができます。なお、再処理に当たっては、病害虫防除所等関係機関の指導を受けて下さい。

⑥本剤は樹勢の弱い樹や登熟の悪い枝等に対しては、効果が不十分なので使用を避けて下さい。樹勢がやや強めの方が安定した効果が得られるが、極端に樹勢が強い場合はかえって効果が出にくいので樹勢の管理には十分気をつけて下さい。栽培管理については、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをおすすめします。

⑦本剤の使用により、着粒が安定するとともに果粒の肥大が促進されるので、着粒過多（過密着）による裂果発生のおそれがあります。また、果梗が硬化し脱粒しやすくなるので、裂果や脱粒を未然に防ぐため、開花

前の整房や着粒後の摘粒等の栽培管理を適切に行って下さい。栽培管理については、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをおすすめします。

⑧使用時期や使用濃度を誤ると、花振い、着粒過多（過密着）、有核果混入等のおそれがあるので、使用時期、使用濃度は厳守して下さい。

⑨無種子化を目的とした着粒前の処理の際は、特に丁寧に処理することを心がけ、薬液が花蕾全体に十分いきわたるよう注意して下さい。

⑩果粒肥大促進を目的とした着粒後の処理の際は、薬液が付きすぎないように、処理後ぶどうの枝やぶどう棚の針金を軽く振って余分な薬液を落として下さい。

⑪本剤をぶどう（2倍体米国系品種）に無種子化・果粒肥大促進の目的で使用する場合、第2回目処理を浸漬で行うときは100ppmで処理して下さい。また、第2回目処理を散布で行うときは75～100ppm（80～100ℓ/10a）で処理して下さい。散布で行う場合、散布処理は浸漬処理に比べ果粒肥大がやや劣ることがあるので、健全な樹に対して行い、薬液が果房に十分かかるように注意して下さい。

⑫本剤とストレプトマイシン剤を併用することで無核果率の向上を図ることができます。使用に当たっては、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをおすすめします。また、ストレプトマイシン剤の使用上の注意事項を厳守して下さい。

⑬本剤をぶどう（デラウェア）［無核栽培］で使用する場合、満開予定日約14日前よりも早く処理するときは、花振いすることがあるのでホルクロルフェニュロン剤を加用して下さい。また、ホルクロルフェニュロン剤を加用して処理する際は、ホルクロルフェニュロン剤の使用上の注意事項を厳守して下さい。

⑭本剤をぶどう（巨峰系4倍体品種）［無核栽培］の果房伸長促進の目的で使用する場合は、必ず花房だけを目がけて花房全体が十分濡れる程度に部分散布して下さい。この時期に誤って大量の薬液が枝や葉にかかると、その翌年に発芽不良などの新梢の生育障害が起こるおそれがあるので、動力噴霧機やスピードスプレーヤなどによる全面散布は行わないで下さい。

⑮ぶどう（あずましずく）に使用する場合、満開4～13日後の1回処理で十分な効果が得られますが、栽培方法や樹勢等によっては満開時と満開4～13日後の2回処理する必要があるので、使用に当たっては病害虫防除所等関係機関の指導を受けて下さい。

(2) かんきつ

＜花芽抑制による樹勢の維持＞

①衰弱した樹勢のものに使用しても期待した効果が得られない場合があるので、衰弱した樹には使用しないで下さい。

②低温が続いた年（極端な低温の年）又は花芽の減少が予測される裏年の場合は、遅い時期の低濃度処理を心がけて下さい。

③散布の際は薬液が葉先からしずくとなり落下する程度に散布して下さい。

＜落果防止＞

①本剤処理により生理落果が軽減され着果が安定するが、品種等により本剤に対する感受性が異なるので、初めての品種等に使用する場合は最寄りの指導機関の指導を仰ぐか自ら事前に薬効薬害を確認した上で使用して下さい。

②果面の粗滑や果皮の厚さ等果実品質への影響が懸念される場合があるので、使用時期、濃度は守って下さい。

(3) 温州みかん

＜浮皮軽減＞

①本剤処理により着色が遅延することがあるため、貯蔵用または樹上完熟の温州みかんで使用して下さい。

②本剤処理により薬斑が残ることがあるため、使用に当たっては病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをおすすめします。

(4) ワシントンネーブルの落果防止の目的で使用する場合は次の点に注意すること。

①異常に結果歩合の低いものは処理しても効果の上がらないことがあります。

②通常幼果1果当り小型噴霧器で0.1～0.2㎖程度を噴霧して下さい。

(5) 長門ユズキチ（無核）

長門ユズキチの落果防止および着果安定の目的で使用する場合は、薬液が花または幼果から滴り落ちる程度に散布して下さい。

(6) 日向夏

日向夏の無種子化および落果防止の目的で使用する場合は、薬液が花または幼果から滴り落ちる程度に散布して下さい。

(7) びわ（3倍体）

①本剤処理しないとすべて落果するので必ず処理して下さい。

②樹勢が弱いと果実肥大等の効果が出にくい場合があるので、樹勢は強めに維持して下さい。2回目処理時に1果そうに数果残しておき、果形の良否が判断できる時期に品質の良い果実を残して摘果し、適正着果量をこころがけて下さい。

③第1回目の使用時期が早すぎると果梗部のネックが発生しやすく、第2回目の使用時期が遅すぎたり、使用濃度が高い場合は果面の緑斑が残りやすい傾向があるので、使用時期、使用濃度を守って下さい。

(8) みつば（軟化栽培を除く）

葉の表裏に十分散布して下さい。高温長日条件下の散布は抽苔しやすくなるので、秋作を中心とした処理をおすすめします。

(9) みつば（軟化）

灌水は処理の当日はさけ、翌日に行って下さい。散布により発生茎数が多くなるので根株の伏込みは心持ち加減して下さい。

(10) トマト

落果防止剤を使用した後の本剤の散布は効果が若干劣るので、本剤を先に散布するか、又は混用して使用して下さい。

(11) いちご

＜着果数増加・熟期促進＞

①処理したいちごの果柄がのび、花、果実が葉の上に出た頃寒波がくると特に寒害を受け易いので防寒に留意して下さい。

②本剤の散布適期は休眠に突入して矮化が始まる直前であり、休眠に入ってからでは効果が期待できないので、時期を失わないよう、いちごの生育状況に応じて散布時期を決めて下さい。

また、第１回目処理後、生育状況をみながら必要に応じて追加処理をして下さい。

③過剰散布は根の発育抑制やくず果を増加させるので、使用濃度、散布液量を厳守して下さい。

＜果柄の伸長促進＞

処理したいちごの果柄がのび、花、果実が葉の上に出た頃寒波がくると特に寒害を受け易いので防寒に留意して下さい。

(12) セルリー

定植後約１ヶ月以内に散布すると「ス」が入りやすくなるのでさけて下さい。

(13) 春うど

芽及び根株が十分したたる程度に散布又は瞬間浸漬して下さい。灌水は処理の当日はさけ、翌日に行って下さい。伏込み後の目土の上からの散布は根株に吸収され難いのでさけて下さい。

(14) ふき

収穫間近に散布すると効果が減少することがあるので、使用時期を誤らないよう注意して下さい。

(15) 畑わさび

①花芽分化前に処理しても効果が出にくいので、花芽分化開始を確認してから処理して下さい。

②全面散布は効果が劣るので株の中心部に散布し、効果を高めるため必ず2回処理して下さい。気温が5℃以下では効果が劣るので11月上旬からビニール等で被覆し、保温管理して下さい。また、15℃以上になると花芽分化が抑制されるので、15℃以上にならないよう温度管理には十分注意して下さい。

(16) たらのき

①散布は散布むらがないよう噴口の小さい散布器を用いて入念に行って下さい。

②薬液が芽に均一にかかるよう、駒木の高さと芽の向きを揃えて下さい。

(17) 花き

①処理濃度、量、回数は必要最小限度にとどめ、徒長や軟弱化を防ぐため栽培管理に十分注意して下さい。

②処理の際には花蕾のある中心部めがけて噴霧して下さい。

③チューリップ

イ．促成栽培(促成栽培、半促成栽培)に使用して下さい。

ロ．処理時期は草丈が7～20cm（適期：10～15cm）の頃です。

ハ．本剤の溶液は筒状の葉の中心部1回、又は2回（7日おき）滴下して下さい。滴下量が多くなると薬液があふれ、通常溜る量が過剰分に引きずられて流出し、効果が不安定になるので注意して下さい。1.0mℓの滴下であふれる場合は、保持される最大の量に止めて下さい。

ニ．品種により、感受性の差異がみられるので、感受性の強い品種(ウイリアムピット、ゴールデンハーベストなど)を選んで使用するのが有利です。

④さつき

さつきの未開花苗に使用する場合は、茎の伸長状況を見ながら対象品種の成木の開花時期を参考にして、使用時期を決めて下さい。

⑤りんどう

イ．処理は葉が十分濡れる程度に散布して下さい。

ロ．使用時期の定植直前は苗姿3～4対葉期を目安にして下さい。

⑥さくら（切り枝促成栽培）

イ．単独処理では効果が劣るので、温湯処理と組み合せて使用して下さい。

ロ．休眠が深い時期の処理は効果が出にくいので、自発休眠の浅い時期に処理して下さい。

[3] **適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬効薬害の有無を十分確認してから使用して下さい。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをおすすめします。**

●安全使用上の注意

●眼に入らないように注意して下さい。眼に入った場合は直ちに水洗し、眼科医の手当を受けて下さい。使用後は洗眼して下さい。(刺激性)

●保　管…密封し、直射日光をさけ、食品と区別して、冷涼・乾燥した所に保管して下さい。

液　剤

植物成長調整剤

ジベレリン明治 液剤

ジベレリン ……0.50％
湿展剤、有機溶剤等 ……99.5％

農林水産省登録　第6005号

毒性 普通物　有効年限 4年　危険物 第四類アルコール類

包装 〔40㎖（ジベレリン200mg）×1本〕×10箱×10

●適用作物・使用目的と使用方法

作物名	使用目的	使用濃度	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジベレリンを含む農薬の総使用回数
かんきつ（不知火、ぽんかん、かぼす、はるみ、ワシントンネーブル、日向夏、すだち、平兵衛酢、長門ユズキチ（無核）、温州みかんを除く）	花芽抑制による樹勢の維持	ジベレリン25～50ppm	収穫直後～収穫約1ヶ月後	1回	立木全面散布又は枝別散布	1回
	落果防止		開花始め～満開10日後		散布	
不知火はるみ	花芽抑制による樹勢の維持		収穫直後～収穫約1ヶ月後		立木全面散布又は枝別散布	
	落果防止		開花始め～満開10日後		散布	
	水腐れ軽減	ジベレリン0.5～1ppm	着色終期但し、収穫7日前まで		果実散布	
ぽんかん	花芽抑制による樹勢の維持	ジベレリン25～50ppm	収穫直後～収穫約1ヶ月後		立木全面散布又は枝別散布	
	落果防止		開花始め～満開10日後		散布	
	水腐れ軽減	ジベレリン0.5ppm	着色始期～4分着色期但し、収穫21日前まで		果実散布	
長門ユズキチ（無核）	花芽抑制による樹勢の維持	ジベレリン25～50ppm	収穫直後～収穫約1ヶ月後		立木全面散布又は枝別散布	
	落果防止		開花始め～満開10日後		散布	
	着果安定	ジベレリン50ppm	開花期～開花終期		花又は果実散布	
	果皮の緑色維持	ジベレリン10～25ppm	収穫予定14～30日前		果実散布	
すだち平兵衛酢かぼす	花芽抑制による樹勢の維持	ジベレリン25～50ppm	収穫直後～収穫約1ヶ月後		立木全面散布又は枝別散布	
	落果防止		開花始め～満開10日後		散布	
	果皮の緑色維持	ジベレリン10～25ppm	収穫予定14～30日前		果実散布	
ワシントンネーブル	花芽抑制による樹勢の維持	ジベレリン25～50ppm	収穫直後～収穫約1ヶ月後		立木全面散布又は枝別散布	
	落果防止	ジベレリン500ppm	満開10～20日後の幼果期		幼果に散布	
日向夏	花芽抑制による樹勢の維持	ジベレリン25～50ppm	収穫直後～収穫約1ヶ月後		立木全面散布又は枝別散布	
	無種子化落果防止	ジベレリン300～500ppm	満開7～10日後		果実散布	
温州みかん	花芽抑制による樹勢の維持	ジベレリン25～50ppm	収穫直後～収穫約1ヶ月後		立木全面散布又は枝別散布	
	落果防止		開花始め～満開10日後		散布	
	浮皮軽減	ジベレリン3.3～5ppm	収穫予定日の3ヶ月前但し、収穫45日前まで		果実散布（プロヒドロジャスモン1000～2000倍液に加用）	
アセロラ	着粒安定	ジベレリン25ppm	開花期	1花当り1回	花に散布	1花そう当り3回以内
しそ（花穂）	穂の伸長促進	ジベレリン5ppm	出穂期但し、収穫7日前まで	1回	茎葉散布（50ℓ/10a）	2回以内（種子への処理は1回以内、は種後は1回以内）
みつば（軟化栽培を除く）	生育促進	ジベレリン10ppm	本葉2～3枚時（第1回目）とその2週間後（第2回目）但し、収穫14日前まで	2回	葉面散布	3回以内（種子への処理は1回以内、は種後は2回以内）

作物名	使用目的	使用濃度	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジベレリンを含む農薬の総使用回数
みつば（軟化栽培）	生育促進	ジベレリン 20～50ppm	根株伏込時	1回	根株上面に散布	2回以内（種子への処理は1回以内、根株伏込時は1回以内）
セルリー	生育促進 肥大促進	ジベレリン 50～100ppm	収穫予定 15～20日前		葉面散布	2回以内（種子への処理は1回以内、は種後は1回以内）
ふき	生育促進	ジベレリン25ppm	葉数3～4枚時（草丈10～30cm頃）		全面散布	1回
うど（春うど）	休眠打破による生育促進	ジベレリン50ppm	伏込時		根株散布	
		ジベレリン50～100ppm			根株浸漬	
トマト	空どう果防止	ジベレリン10ppm	開花時	1花房当り 1回	花房散布（トマト落果防止剤と併用）	種子への処理は1回、1花房当り1回
きゅうり（抑制栽培）	果実肥大	ジベレリン50ppm		1花当り 1回	花に散布 又は浸漬	種子への処理は1回、1花当り1回
なす	着果数増加	ジベレリン10～50ppm		1回	葉面散布	2回以内（種子への処理は1回以内、は種後は1回以内）
メロン	着果促進	ジベレリン200ppm	開花前日～翌日	1花当り 1回	散布（4-CPA剤50倍液に加用）	種子への処理は1回、1花当り1回
いちご（促成栽培）	着果数増加 熟期促進	ジベレリン10ppm	休眠に入る直前（冬場の低温期）	1株当り 6回以内	茎葉全面散布（1株当り5㎖）	1株当り 10回以内
いちご	果柄の伸長促進		頂花の出蕾直後～開花直前	1花房当り 1回	株の中心部に 5㎖散布	
いちご（親株床）	ランナー発生促進	ジベレリン 50ppm	採苗時ランナー発生直前～発生初期	1株当たり 1回	茎葉散布（1株当り10㎖）	1株当り1回
ごぼう（促成栽培）	休眠打破による生育促進	ジベレリン 10～15ppm	休眠に入る直前（残葉2枚程度の頃）及びその約1ヶ月後（但し、収穫30日前まで）	2回以内	茎葉散布	3回以内（種子への処理は1回以内、は種後は2回以内）
シクラメン	開花促進	ジベレリン 1～5ppm	9月中・下旬	1回	花蕾を含む芽の中心部に散布	1回
プリムラ（マラコイデス）		ジベレリン 10～20ppm	11月上旬頃の花蕾出現直後		株の中心部に散布	
みやこわすれ	開花促進 草丈伸長促進	ジベレリン 50～100ppm	1月中旬の保温開始時から7～10日間隔	3回	葉面散布	3回以内
きく		ジベレリン 25～100ppm	生育期	2回以内	茎葉散布	2回以内
しらん		ジベレリン50ppm	植付時	1回	30分間株浸漬	1回
チューリップ（促成栽培）	開花促進	ジベレリン400ppm	草丈7～20cmの時に7日間隔	2回以内	筒状の葉の中心部に滴下（1球当り1㎖）	2回以内
	花丈伸長促進及び茎の肥大促進	ジベレリン100ppm	草丈7～10cm時	1回	ホルクロルフェニュロン0.05～0.1ppm液に加用、葉筒内滴下（1球当り1㎖）	
さくら（切り枝促成栽培）	休眠打破による生育促進	ジベレリン 25～50ppm	休眠期（温湯処理直後）		切り枝全面散布	1回
カラー	生育促進	ジベレリン50ppm	植付時		球根浸漬	2回以内
			花茎伸長期		茎葉散布	
スパティフィラム	開花促進	ジベレリン250～500ppm	出荷予定期の2～3ケ月前		茎葉散布	1回
トルコギキョウ	生育促進	ジベレリン 50～100ppm	生育期間中にロゼット化した時			
アザレア	開花促進	ジベレリン250～500ppm	開花予定日約1ケ月前			
アイリス	生育促進	ジベレリン50～100ppm	植付時		球根浸漬	
花き類	発芽促進	ジベレリン 50～200ppm	は種前		種子浸漬	
野菜類						

●効果・薬害等の注意

〔1〕薬液の調製法及び取扱い上の注意

(1) 本剤は次表に従って所定量の水に希釈すれば希望濃度の水溶液を作ることが出来ます。

1ビン　40㎖（ジベレリン200mg含有）当り水量

ジベレリン濃度(ppm)	1ppm	5ppm	10ppm	25ppm	50ppm	100ppm	200ppm	400ppm	500ppm	1000ppm
[薬液+水]の総量(ℓ)	200ℓ	40ℓ	20ℓ	8ℓ	4ℓ	2ℓ	1ℓ	0.5ℓ	0.4ℓ	0.2ℓ

(2) 使用に当ってはその都度溶解調製することをおすすめします。溶解後放置すると効力が低下する場合があるので、なるべく調製当日に使い切って下さい。(分解)

(3) 本剤の使用に当っては使用濃度、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをおすすめします。

〔2〕使用上の注意

(1) ぶどう

ぶどうには場合によってはサビ果の発生等、果実に障害が起こることがあるので、使用しないで下さい。

(2) かんきつ

〈花芽抑制による樹勢の維持〉

①衰弱した樹勢のものに使用しても期待した効果が得られない場合があるので、衰弱した樹には使用しないで下さい。

②低温が続いた年（極端な低温の年）または花芽の減少が予測される裏年の場合は、遅い時期の低濃度処理を心がけて下さい。

③散布の際は薬液が葉先からしずくとなり落下する程度に散布して下さい。

〈落果防止〉

①本剤処理により生理落果が軽減され着果が安定しますが、品種等により本剤に対する感受性が異なるので、初めての品種等に使用する場合は最寄りの指導機関の指導を仰ぐか自ら事前に薬効薬害を確認した上で使用して下さい。

②果面の粗滑や果皮の厚さ等果実品質への影響が懸念される場合があるので、使用時期、濃度は守って下さい。

(3) 温州みかん

＜浮皮軽減＞

①本剤処理により着色が遅延することがあるため、貯蔵用または樹上完熟の温州みかんで使用して下さい。

②本剤処理により薬斑が残ることがあるため、使用に当っては病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをおすすめします。

(4) ワシントンネーブルの落果防止の目的で使用する場合は次の点に注意すること。

①異常に結果歩合の低いものは処理しても効果の上がらないことがあります。

②通常幼果１果当り小型噴霧器で0.1～0.2㎖程度を噴霧して下さい。

(5) 長門ユズキチ（無核）

長門ユズキチの落果防止および着果安定の目的で使用する場合は、薬液が花または幼果から滴り落ちる程度に散布して下さい。

(6) 日向夏

日向夏の無種子化および落果防止の目的で使用する場合は、薬液が花または幼果から滴り落ちる程度に散布して下さい。

(7) みつば（軟化栽培を除く）

①散布する場合、葉の表裏に十分付着させて下さい。

②高温長日条件下の散布は抽苔しやすくなるので、秋作を中心とした処理をおすすめします。

(8) みつば（軟化）

①灌水は処理の当日はさけ、翌日に行って下さい。

②散布により発生茎数が多くなるので根株の伏込みは心持ち加減して下さい。

(9) セルリー

定植後１ヵ月以内に散布すると「ス」が入りやすくなるのでさけて下さい。

(10) ふき

収穫間近に散布すると効果が減少することがあります。

(11) 春うど

芽及び根株が十分したたる程度に散布又は瞬間浸漬して下さい。灌水は処理の当日はさけ、翌日に行って下さい。伏込み後の目土の上からの散布は根株に吸収され難いのでさけて下さい。

(12) トマト

トマトの落果防止剤を使用した後散布すると効果が若干劣るので、本剤を先に散布するか、混用して使用して下さい。

(13) いちご

〈着果数増加・熟期促進〉

①処理したいちごの果柄がのび、花、果実が葉の上に出た頃寒波がくると特に寒害を受け易いので防寒に留意して下さい。

②本剤の散布適期は休眠に突入して矮化が始まる直前であり、休眠に入ってからでは効果が期待できないので、時期を失わないよう、いちごの生育状況に応じて散布時期を決めて下さい。

又、第１回目処理後、生育状況をみながら必要に応じて追加処理をして下さい。

③過剰散布は根の発育抑制やくず果を増加させるので、使用濃度、散布液量を厳守して下さい。

〈果柄の伸長促進〉

処理したいちごの果柄がのび、花、果実が葉の上に出た頃寒波がくると特に寒害を受け易いので防寒に留意して下さい。

(14) ごぼう

①厳寒期は被覆資材等を利用して防寒に留意して下さい。

②第1回目処理後、生育状況をみながら必要に応じて追加処理をして下さい。

(15) 花き

①処理濃度、量、回数は必要最小限にとどめ、徒長や軟弱化を防ぐため栽培管理には十分注意して下さい。

②処理の際には花蕾のある中心部めがけて噴霧して下さい。

③チューリップ

〈開花促進〉

イ．本剤のチューリップへの利用は促成栽培（促成栽培、半促成栽培）に使用して下さい。

ロ．処理時期は草丈が7～20cm（適期：10～15cm）の頃です。

ハ．ジベレリン溶液は筒状の葉の中心部に１回又は２回（７日おき）滴下して下さい。滴下量が多くなると薬液があふれ通常は溜る量が過剰分に引きづられて流出し、効果が不安定になるので注意して下さい。1.0㎖の滴下であふれる場合は、保持される最大量に止めて下さい。

ニ．滴下前に灌水をすませ、筒状の葉の中の水はあらかじめ取り除いて下さい。滴下後は2～3日灌水をひかえて下さい。

ホ．品種により、感受性の差異が見られるので感受性の強い品種（ウィリアムピット、ゴールデンハーベスト等）を選んで使用するのが有利です。

〈花丈伸長促進及び茎の肥大促進〉

イ．本適用は促成栽培を対象とし、花丈伸長及び茎の肥大を促し「切花」の品質向上を目的として下さい。

ロ．微量で鋭敏に作用し、過量の場合、花弁の奇形や肥厚の生育異常、葉や花の着色不良若しくは色抜けの生理障害等の薬害が発生しやすいので、使用時期、使用濃度及び使用方法を厳守し、滴下処理に際しては、液が葉筒内より漏出しないよう注意して下さい。薬害回避には草丈7～8cmとやや早い時期の低濃度処理をこころがけて下さい。

ハ．本適用の効果には品種間差異があるので、促成栽培品種であっても事前に最寄りの指導機関等の指導を受け、効果及び薬害の有無を確認してから使用濃度等を決めて下さい。

④さくら（切り枝促成栽培）

イ．単独処理では効果が劣るので、温湯処理と組み合せて使用して下さい。

ロ．休眠が深い時期の処理は効果が出にくいので、自発休眠の浅い時期に処理して下さい。

〔3〕適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬効薬害の有無を十分確認してから使用して下さい。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをおすすめします。

〔4〕一般的注意事項

(1) 栽培管理・肥培管理の不十分な不良環境園ではジベレリンの効果が十分発揮されない場合があるので注意して下さい（効果）。

(2) ボルドー液などアルカリ性の薬剤との混用はさけて下さい。混用しない場合でも近接散布はさけて下さい（分解）。

(3) 異常天候（高温、低温、乾燥など）の条件下では効力が不十分な場合があります。不良環境・異常天候と思われる場合は最寄の病害虫防除所等関係機関に相談するなど十分注意して使用して下さい（効果）。

●安全使用上の注意

1) 誤飲（誤食）に注意して下さい。

2) 眼に入らないよう注意して下さい。眼に入った場合は直ちに水洗し、眼科医の手当を受けて下さい。使用後は洗眼して下さい（刺激性）。

●保　管…密封し、直射日光をさけ、食品と区別して、冷涼・乾燥した所に保管して下さい。

●使用時にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●本剤は小児の手の届く所には置かないでください。
この印刷物の内容は2010年4月現在のものです。

【お問い合せ／ご注文は】

明治製菓株式会社
104-8002東京都中央区京橋2-4-16
http://www.meiji.co.jp/agriculture/

GB-1 K100503